

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290900248		
法人名	アーケム株式会社		
事業所名	グループホームゆう希苑つかだ		
所在地	千葉県船橋市前貝塚町444-1		
自己評価作成日	平成28年10月13日	評価結果市町村受理日	平成28年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成28年12月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設より7年が経過し、ご入居者の高齢化や認知症・介護度の重度化に伴い、医療面の強化に努め、往診医との連携だけでなく、必要ならば外部の病院の受診の付き添い等、積極的に対応しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

最寄りの東武野田線塚田駅から5分ほどの閑静な住宅街の一角に立地し、グループホーム専用にて建てられた2階建て2ユニットの苑です。中津川公園に面し、小川に沿って遊歩道があり、春は桜、秋は紅葉等自然に恵まれた環境の中、利用者は散歩を楽しんでいます。  
 毎年小・中学校の職場体験に4～5名を2日間受け入れたり、各種ボランティアと利用者及び家族との交流が図られ、町内会長の理解もあって地域密着の活動が着実に築かれています。  
 地域密着型の主旨が入った3項目の理念を掲げ、施設長や職員は、家庭的な環境の中、自立した生活が送れるように、利用者個々に寄り添った質の高い介護を実践しています。家族会で、行事等を撮影した写真を納めたDVDを見せて家族から喜ばれています。また医療面でも、往診医や訪問看護師と連携のもと、看取りの体制も充実しており、今年も2名の看取りを行い家族に安心感を与えています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型のサービスに則した理念が掲げられています。スタッフ全員が、その理念を共有出来るように、毎朝の申し送り時やカンファレンス時に唱和し、日頃のサービスの中で実践に心掛けています。	地域密着性を織り込んだ3項目の理念を、玄関と和室に掲げ、毎日の申し送り時や3か月に1回のカンファレンスや全体会議時に、唱和・確認・共有し日頃のサービスに活かすように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の福祉祭りに参加したり、小中学生の職場体験の受け入れや地域のボランティアを招待したり等、地域との交流に努めています。	町内会の行事や福祉祭りの他フラダンス、手品、コーラスなどのボランティアや小・中学生4～5名を2日間職場体験に受け入れるなど、地域との交流が活発に図られています。また苑主催の敬老会には、地域の人や家族が参加し利用者と一緒に交流を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉祭りに参加させて頂き、認知症の方への支援の実際を紹介しています。又、日常より、入居ご相談だけでなく、介護相談窓口としても活動しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しております。サービスの実際だけでなく、毎回議題を設定し、意見交換に多くの時間を費やすようにしています。頂いたご意見は、申し送り時やカンファレンスで話し合い、サービスの向上に努めています。	会議は、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、在宅支援センター、家族、職員等が参加し、年6回定期的に開催しています。ホームの現状報告の他、感染症、看取り、防災、虐待防止等の議題について、参加者と意見交換しサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方とは、運営推進会議にて毎回情報交換しています。生活支援課や高齢者福祉課の方とも日頃より連絡をとり、協力関係をとっています。	市の関係課とは常に連絡を取り合い相談をするほか、市の担当者も来苑してくれます。運営推進会議にも、毎回地域包括支援センターの出席があり良好な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除を基本方針とし、苑内研修にて理解を深め、必要に応じて外部研修を行う事で周知徹底をはかっています。ご入居者やご家族に説明し、ご納得頂いた上で玄関には施錠していますが、拘束感を抱かせぬように配慮しています。	身体拘束排除を掲げ、施設長は年1回の社内研修(身体拘束・虐待防止)の他外部研修会にも職員を参加させ、周知徹底を図っています。玄関は目の前に調整池がある為施錠していますが、拘束感を抱かせないよう見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、苑内研修にて実際に他の施設で起きてしまった事例を挙げたり、何故起きてしまうのか、防いでいく為には何が必要かを話し合い、スタッフ全員が虐待の防止の徹底に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の対象者がいる事もあり、日常生活自立支援事業と合わせて、資料を提示し、会議等で説明して理解してもらおうようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、しっかりと時間をとり、出来る限りわかりやすく説明するように努めています。又、必ず施設見学をして頂き、ご納得して頂いた上で入居して頂くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者とは日常の中から意向を確認しています。ご家族とは家族会や面会に来られた時にも、気軽になんでもお話し出来る雰囲気作りにも努めています。又、ご家族の諸事情や話しぶり事もあるので、玄関に投書箱を設置したり、各居室に連絡ノートを設置しています。	家族には、来訪時や運営推進会議、行事開催時、年1回の家族会などで直接意見や要望を聴いて運営に反映しています。外部評価時の家族アンケートでも多くの家族から「話を聞いてくれ、柔軟な対応をしてくれます」と称賛されています。利用者については、日頃のふれあいの中から思いを把握しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時行う個人面談や3ヶ月に1度行うスタッフ会議や申し送り等にて意見交換を行っています。又、スタッフが普段から話しやすい環境作りにも努めています。	施設長は、日頃の対話やカンファレンス、全体会議などの他年1回の個人面談などで意見・要望を聴き運営に反映しています。職員のヒアリングでも職員の休憩時間が取れるように改善するなど「職員に耳を傾けてくれ、働きやすい職場」との声があり、施設長と職員の密接な信頼関係が窺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、面談や話し合いを行い、スタッフが働きやすい職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑外研修の情報を収集し、それをスタッフに提示する事で、その都度、研修に参加出来る機会を確保しています。研修内容は全員が共有出来るように、研修報告の回覧をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の施設長会議やグループホーム連絡会に参加し、意見交換やネットワーク作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より出来る限り、本人の生活歴や性格等の情報を収集し、その方々に沿ったケアを心掛け、会話や表情の中からご本人が安心出来るような声掛けや対応に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでや入居して苑での生活に慣れるまで、ご本人同様、不安感が当然あるので、まめに連絡をとり、安心して頂けるよう関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族やだけでなく、ケアマネジャー等の第三者からの情報収集に努め、どのようなケアを望み、必要なかを医療従事者等と連携し、1つのチームとして対応出来るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・食事の準備・片付け・裁縫等その方々のADLに合わせ一緒に行い、例えうまく出来なくても、スタッフがフォローし、敢えて行って頂くように出来る体制をとっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者の様子を随時伝え、日常の中での問題点をご家族に提示し、出来る限り共に相談しながら対応していくようにしています。可能な方には、外泊・外出・外食をお願いしている方もいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者が入居前に通っていた公民館のクラブ活動や神社やお墓参り・博物館へご家族と連携しお連れしたり、自宅へ外泊したりと馴染みのあるものとの関係継続に努めています。又、面会時間は昼夜問わず、事前の連絡なしに対応し、ご家族やご友人が気軽に来苑出来るよう努めています。	入居前に参加していた体操クラブや落語会などに出掛ける人がいます。外部から訪れやすい雰囲気づくりに努め、家族アンケートでも面会時間が自由な為「気軽に行きやすい」と多くの方が答えています。家族と外食や自宅に外泊する人や携帯を持つ人が数名いるなど、今までの関係が継続できるよう支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフがご入居者の間に入り、情報を発信し、会話を楽しめる雰囲気作りをしたり、みんなが協同して出来る作業をとりいれる事によって、ご入居者同士が関わり合う雰囲気作りにも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に関しては、情報提供や相談等に心掛け、退去後の生活に活かせるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者の行きたい所(買い物・博物館・外食)ややりたい事(クラブ活動等)その都度出来る限り対応しています。意向の把握が困難な場合は日常の中の何気ない会話や仕草や表情の中から意向を把握し、その情報をカンファレンスや申し送り等で情報を共有しています。	入居前から電話や面談から情報を把握するようにしています。利用者の希望で買い物や外食に付き添ったり、困難な場合でも、日常の様子から「編み物、食事の手伝い」などの思いを察し、職員間で共有して日々の支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報を基に、今までどのような生活をしてきたのかを把握し、出来る限り本人の性格に合った環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや連絡ノートにて、日々の変化をスタッフ全員が共有し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ご入居者やご家族だけでなく主治医やリハビリの先生・歯科医等と相談し、ケアカンファレンスで協議し、計画作成担当者が3ヶ月に1回作成しています。又、ご入居者の状態に変化があれば、その都度見直しています。	家族からは面会時や電話などで意見を聞き取り、主治医やリハビリ、歯科医の関係者からの情報を反映し、ケアカンファレンスで話し合っって介護計画を作成しています。3か月毎に見直し、体調に変化があれば随時見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の記入や連絡ノートや申し送り等を利用し、スタッフ間で情報を共有し、介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	好きな食べ物・ビール等の嗜好品や買い物・博物館・馴染みの美容院等の外出や地域のクラブへの参加等、可能な限りその時々ニーズに対応出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会から紹介された地元のボランティアの受け入れや地域の祭りやイベント・クラブ活動に参加したり、可能な限り、地域資源を活用し、生活を楽しむ事が出来るように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に4回訪問診療があり、その都度、主治医にて1名ずつ診察し、体調変化時はその方も診察出来る体制をとっています。又、ご本人・ご家族の意向でそれぞれの医療機関で適切な医療を受けられるよう支援し、必要に応じてスタッフが付き添いをしています。	内科医3名がそれぞれ数人の利用者を担当し、月2回訪問診療に来ています。他科受診は必要があれば職員が付き添うようにしています。歯科往診は週1回あります。主治医とは24時間対応体制がとられ、適切な医療を受診できるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約している為、身体的変化や対応等、相談や指示を受ける事が出来る体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の状態をご家族や病院と密に連携をとり、情報を共有して対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	長期の入院や共同生活が困難になった場合を除き、重度化した場合でもご家族と主治医と連携し、出来る限り苑で生活出来るよう努めています。終末期については、入居時に意向確認を書面にて行いますが、終末期と判断された場合、再度意向を確認し、看取り介護計画書を作成し、方針を共有・対応するようにしています。	契約時に「終末期の意向確認書」を家族に説明し同意を得るようにしています。重度化した場合、家族、主治医、施設長で話し合い、意向を確認後、「看取り介護計画書」を作成し、職員間で共有するようにしています。職員には年1回、看取りに関する研修を行いレベル向上を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防が主催する救命救急の研修に順次参加しています。又、急変時のマニュアルを作成し、カンファレンス時に勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は消防署の連携のもと、夜間想定を含め、年2回行っています。近隣の方やご家族への声掛けも行い、災害時の協力体制をとっています。スタッフ連絡網の確認や有事の際の対応の認識に努めています。	消火・通報・避難訓練は(夜間想定を含む)消防署と連携し年2回実施しています。町内会長や民生委員の協力もあります。緊急連絡網や対応表も掲示し、備蓄も蓄電器を含め5日分用意してあります。	地域(町内会)の協力体制も進んでいますが、消防署立会の災害避難訓練を実施すること、また備蓄について、災害時の近隣住民分も考慮して数量・内容共見直すことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者に対し、馴染みの関係でありながらも、丁寧な声掛けを徹底し、言葉遣いや対応方法が乱れない様に、日々指導しています。居室に入る際は、必ずノックや声掛けをし、トイレや入浴時には羞恥心に配慮し、個人の尊厳やプライバシーを損ねない対応を心掛けています。	言葉遣いやプライバシーに対し、日々指導を行っています。特に入室時のノック、声かけは、(~さん)に統一しています。職員への研修は会議毎にとり上げ、個人のプライバシーへの意識付けに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から思いや希望を聞くように心がけ、散歩や体操、レクリエーション等も強制する事なく、意思を確認できるような声掛けを行うように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の状態や体調を考慮しながら、又、その方々のペースに合わせながら対応しています。ご本人にとって心地良い生活が出来るように対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者の好みに応じて、好きな色・形の衣類を着ています。ご自身で選択するのが困難な方は、スタッフにてその方が引き立つような色や形を工夫しています。又、衣類による体温調節にも配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、調理担当が中心に行っています。下拵えや配膳・下膳や食器洗いやお茶入れ等スタッフと一緒にしています。出来ない事であっても本人の意思を尊重し、敢えて行って頂き、スタッフがフォローしています。	食事は調理担当者を2名配置し、本社の管理栄養士が作成した献立に沿って、食材を注文しています。利用者も配下膳、食器洗いなど一緒に行っています。利用者の声を反映し、フライやハンバーグにメニューを変えたり外食に行くなど、個々の好みを活かす支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の量を全員チェックしており、その都度嗜好品や補食等で1日分のカロリーと水分を摂取出来るように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めています。定期的に来る歯科衛生士にて口腔内をチェックしてもらい、その都度その方に合った口腔ケアの方法を指導して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の毎日の排泄パターンを記録し、声掛けしてトイレ誘導する事で、失禁やオムツの使用量を減らし、トイレで排泄出来るように努めています。オムツの方も可能な限り、トイレでの排泄が出来るように努めています。	排泄表に沿って声かけし、トイレ誘導を行っています。オムツの使用量は少なく、リハビリパンツと布パンツで個々に合わせた自立支援を行っています。夜間時は簡易センサーを置くなど、安全面にも配慮した支援を心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に毎日記録を行い、排便の確認をしています。出来る限り内服薬に頼らず、生活習慣や水分補給や運動等により改善出来るように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本としていますが、希望があれば毎日の入浴も可能です。入浴する時間帯や日程はなるべくご本人の意向に合った支援に努めています。	入浴は週3回で午前中に行っています。希望があれば毎日でも入浴でき、個々の好みに沿った支援に努めています。浴槽も清潔感があり、広くゆったりとしています。また、菖蒲湯や柚子湯で季節感を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況や変化に応じ、起床・就寝時間を見極めた対応をしています。夜間、居室の電気もその方の希望によりつけている場合やリビングで眠くなるまでスタッフと一緒に過ごしたり等、安心して休息がとれるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の用法用量や注意書きがすぐわかるようにしています。服薬前に名前確認を必ず行い、内服するまでスタッフが確認しています。又、内服忘れがないよう、他のスタッフが再確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者の長年の習慣や趣味を活かし、小物作りや裁縫や掃除等スタッフと一緒にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ、隣接された公園に、日常的にスタッフと共に散歩に出かけています。又、希望にそって、ご家族と連携しながら、買い物や映画館や博物館や美容院等、要望をとりいれながら支援しています。	苑の前に公園があり、天気が良ければ毎日午後、30分～40分程散歩に出掛けており、希望があれば買物に職員が同行しています。家族と喫茶店や外食、実家に外泊する利用者もいます。家族にもクリスマス会や夏祭り、敬老会の行事に声かけし、協力しての支援に取り組んでいます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、自身で管理され、買い物等で使う事があります。こちらで預かっている方は、出納帳に記入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は基本的にいつでも使えるようにしており、携帯電話も所持している方もいます。手紙や葉書は、書かれた時は、スタッフが預かって投函したり、散歩がてら郵便局まで一緒に行く事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内の環境整備には十分配慮し、リビングやトイレ・洗面所等の共用の場所は1日2回掃除をして、不快な空間にならないように留意しています。リビングには、季節の飾り付け等をご入居者とスタッフで行い、季節感を出す工夫をしています。	玄関には大きなクリスマスツリーが飾られ、明るく広いリビング兼食堂は綺麗に掃除されています。特にトイレや洗面台はぴかぴかになっています。壁には大きなカレンダーや季節ごとの写真が入った貼り絵、習字が飾られています。厨房が一体となっており、調理の匂いや音で生活感があり、和室やソファが置かれ利用者がゆったりと寛げるように配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間で、1人になれる空間はありませんが、和室やソファ等、気の合ったご入居者同士が話せる空間を提供できるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者にとって馴染みのあるものや好みなもの(家族との写真・仏壇・健康器具・植木)を置く事で、居心地良く過ごせるようにしています。居室に入る物で、他者にご迷惑をかけない物であれば、なんでも持ち込み可としています。	木目調で統一された広い居室は、エアコン、クローゼット、カーテンが備え付けです。利用者は使い慣れた馴染みの物を持ち込み自宅に居るように過ごしています。居室担当者は、掃除や換気などの環境に配慮しています。利用者から「小鳥のさえずりが大好き」という声があり、自然環境に恵まれた苑の生活が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や出入り口には物を置かないように、安全に配慮しています。洗面道具等は手の届く所に置くようにし、自身で出来る事は行って頂くように支援しています。		